

10/519690

Rec'd T/PTO 10 JAN 2005

PCT/JP03/10992

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

28.08.03

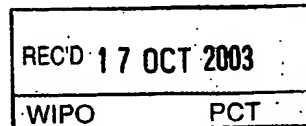
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2002年10月11日

出願番号
Application Number: 特願2002-298699
[ST. 10/C]: [JP2002-298699]

出願人
Applicant(s): 矢崎総業株式会社

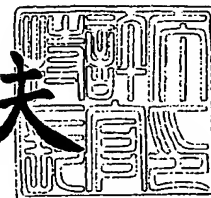


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年10月 2日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2003-3081112

【書類名】 特許願

【整理番号】 P85283-24

【提出日】 平成14年10月11日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B60R 16/02
H02G 3/04
H02G 11/00

【発明の名称】 給電装置とそれを用いたハーネス配索構造

【請求項の数】 13

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県裾野市御宿 1 5 0 0 矢崎総業株式会社内

【氏名】 角田 充規

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県裾野市御宿 1 5 0 0 矢崎総業株式会社内

【氏名】 椿 章

【特許出願人】

【識別番号】 000006895

【氏名又は名称】 矢崎総業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100060690

【弁理士】

【氏名又は名称】 瀧野 秀雄

【電話番号】 03-5421-2331

【選任した代理人】

【識別番号】 100097858

【弁理士】

【氏名又は名称】 越智 浩史

【電話番号】 03-5421-2331

【選任した代理人】

【識別番号】 100108017

【弁理士】

【氏名又は名称】 松村 貞男

【電話番号】 03-5421-2331

【選任した代理人】

【識別番号】 100075421

【弁理士】

【氏名又は名称】 垣内 勇

【電話番号】 03-5421-2331

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 012450

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0004350

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 給電装置とそれを用いたハーネス配索構造

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ワイヤハーネスをループ状に屈曲させて収容する空間と、該ワイヤハーネスに設けられた摺動部材と、該空間に臨んで設けられ、該ワイヤハーネスのループ部を拡張又は縮径させる方向に該摺動部材を案内する摺接ガイドとを備えることを特徴とする給電装置。

【請求項2】 前記空間がプロテクタ内に設けられ、前記摺接ガイドが該プロテクタの長手方向に設けられたことを特徴とする請求項1記載の給電装置。

【請求項3】 前記摺接ガイドが山形状に形成されたことを特徴とする請求項1又は2記載の給電装置。

【請求項4】 前記摺接ガイドが一端から他端にかけて傾斜状に形成されたことを特徴とする請求項1又は2記載の給電装置。

【請求項5】 前記摺接ガイドが対向する一对のレールであり、該一对のレールの間を前記ワイヤハーネスが挿通し、前記摺動部材7が該一对のレールにスライド自在に接する球状の部材であることを特徴とする請求項3又は4記載の給電装置。

【請求項6】 前記摺接ガイドが対向する一对のガイド孔ないしガイド溝であり、前記摺動部材が該ガイド孔ないしガイド溝にスライド自在に係合する軸部を有することを特徴とする請求項3又は4記載の給電装置。

【請求項7】 前記プロテクタの長手方向にワイヤハーネス揺動用の長形の口部が設けられ、該プロテクタの端部側にワイヤハーネス固定側の口部が設けられたことを特徴とする請求項2～6の何れか1項に記載の給電装置。

【請求項8】 前記ワイヤハーネスを構成する各電線の絶縁被覆が温湿変化で剛性低下しにくい材質で形成されたことを特徴とする請求項1～7の何れか1項に記載の給電装置。

【請求項9】 前記ワイヤハーネスの外周に被着された保護チューブが温湿変化で剛性低下しにくい材質で形成されたことを特徴とする請求項1～8の何れか1項に記載の給電装置。

【請求項 10】 前記ワイヤハーネスのループ部に、ヒンジで開閉自在な湾曲状の剛性部材が装着されたことを特徴とする請求項 1～9 の何れか 1 項に記載の給電装置。

【請求項 11】 請求項 1～10 の何れか 1 項に記載の給電装置の前記空間がスライド構造体又は固定構造体に設けられ、該スライド構造体が固定構造体にスライド自在に係合し、前記摺動部材に続くワイヤハーネス部分が該空間から該固定構造体又は該スライド構造体側に導出され、前記ループ部に続くワイヤハーネス部分が該スライド構造体又は該固定構造体側に導出されつつ固定されたことを特徴とする給電装置を用いたハーネス配索構造。

【請求項 12】 請求項 2～10 の何れか 1 項に記載の給電装置の前記プロテクタがスライド構造体又は固定構造体に配置され、該スライド構造体が固定構造体にスライド自在に係合し、前記摺動部材に続くワイヤハーネス部分が該プロテクタの長形の口部から該固定構造体又は該スライド構造体側に導出され、前記ループ部に続くワイヤハーネス部分が該スライド構造体又は該固定構造体側に導出されつつ固定されたことを特徴とする給電装置を用いたハーネス配索構造。

【請求項 13】 前記給電装置が縦置き又は横置きに配置されたことを特徴とする請求項 11 又は 12 記載の給電装置を用いたハーネス配索構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば自動車のスライドドアやスライドシートといったスライド構造体に電源側から常時給電を行わせるべく、スライド構造体の移動に伴うワイヤハーネスの余長をループ状に吸収させる給電装置とそれを用いたハーネス配索構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

図 17～図 18 は従来の給電装置とそれを用いたハーネス配索構造を示すものである（例えば特許文献 1 参照）。

【0003】

この給電装置 61 は、自動車のスライドドア 62 に装着され、合成樹脂製のベース 63 とカバー（図示せず）とで成るプロテクタと、プロテクタ内でワイヤハーネス 64 を上向きに付勢して弛み（余長）吸収させる金属製の板ばね 65 とを備えるものである。

【0004】

ベース 63 はスライドドア 62 のインナパネル 66 に垂直に配置固定され、カバーはベース 63 に係止手段で係止される。板ばね 65 はベース 63 に固定されている。プロテクタの前部にハーネス導出用の狭い口部 67、プロテクタの下部に横長の口部（開口） 68 がそれぞれ形成されている。

【0005】

ワイヤハーネス 64 はプロテクタ内に湾曲状に收容され、ワイヤハーネス 64 の一方は前側の口部 67 からスライドドア側の補機に向けて配索され、他方は下側の口部 68 から渡り部を経てステップ 69 の近傍のハーネス固定部 70 で支持されつつ車両ボディ 70 側に配索され、車両ボディ側（電源側）のワイヤハーネス（図示せず）に接続されている。なお、「前側」とは車両の前側に一致する方向である。

【0006】

図 17 のスライドドア 62 の全閉状態において、ワイヤハーネス 64 は板ばね 65 で上向きに押圧されつつ、プロテクタの下部開口 68 から後方に（ハーネス固定部 70 に向けて）引っ張られている。スライドドア 62 を後方へスライドさせて開けるにつれて、ワイヤハーネス 64 は下向きに弛もうとするが、板ばね 65 の付勢で弛み吸収され、図 18 のスライドドア 62 の全開に近い状態で、板ばね 65 を下方に撓ませつつ小径に屈曲して、前方に（ハーネス固定部 70 に向けて）引っ張られる。スライドドア 62 は図 12 の全閉状態から開く際に外向き（車両ボディ 70 から離れる方向）に移動する。

【0007】

【特許文献 1】

特開 2001-354085 公報（第 7-9 頁、図 4-図 7）

【0008】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来の給電装置とそれを用いたハーネス配索構造にあっては、スライドドア内でワイヤハーネス64を上向きに付勢して弛み吸収させるものであるために、構造が高さ方向に肥大化し、車種によってはウィンドガラスの昇降スペースや補機の配置等の関係でスライドドア内の取付スペースを大きくとることができず、取付位置が限定されたり、取付が全く不可能となる場合が想定された。また、金属製の板ばね65や、板ばね65をベース63に固定するための部材や、板ばね65の先端でワイヤハーネス64を安定に支持させるキャップ等、多くの部品が必要で、部品コストや組付工数が多くかかるという問題があった。

【0009】

また、上記給電装置以外の構造において、ワイヤハーネスとして通常の絶縁被覆電線を使用する場合はよいが、キャブタイヤケーブルやカールコード等の特殊電線を用いる場合には、多くの車種のスライドドアへの対応や設計的な回路変更への対応が困難であるという問題もあった。

【0010】

本発明は、上記した点に鑑み、高さ方向の肥大化を防止してスライドドア等のスライド構造体内に省スペースで組み付けでき、しかも板ばねを用いることなく少ない部品でワイヤハーネスの余長を吸収でき、加えて通常の形状の電線を使用して、多くの種類のスライドドアに適用可能な給電装置とそれを用いたハーネス配索構造を提供することを目的とする。

【0011】**【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成するために、本発明の請求項1に係る給電装置は、ワイヤハーネスをループ状に屈曲させて収容する空間と、該ワイヤハーネスに設けられた摺動部材と、該空間に臨んで設けられ、該ワイヤハーネスのループ部を拡張又は縮径させる方向に該摺動部材を案内する摺接ガイドとを備えることを特徴とする。

上記構成により、車両ボディ等の固定構造体にスライド自在に係合したスライドドア等のスライド構造体の進退移動に伴って、例えばスライド構造体内の空間

から固定構造体側に配索されたワイヤハーネスの摺動部材が空間内で摺接ガイドに沿って摺動しつつ、ワイヤハーネスのループ部が空間内で縮径又は拡張され、ループ部の拡張時にワイヤハーネスの余長が吸収され、ループ部の縮径時にワイヤハーネスが空間から固定構造体側に引き出される。このように、スライド構造体のスライド動作に伴って、摺動部材が摺接ガイドに沿って移動し、空間内でワイヤハーネスのループ部が径方向に拡張したり、あるいは空間内でワイヤハーネスのループ部が横（水平）方向に拡張したりすることで、従来の板ばねを用いた給電構造に較べて、空間が高さ方向に省スペース化される。また、板ばねを使用することなく、ワイヤハーネスの剛性のみでループ部を構成して、ワイヤハーネスの余長吸収を行うことができる。

【0012】

請求項2に係る給電装置は、請求項1記載の給電装置において、前記空間がプロテクタ内に設けられ、前記摺接ガイドが該プロテクタの長手方向に設けられたことを特徴とする。

上記構成により、車両ボディ等の固定構造体にスライド自在に係合したスライドドア等のスライド構造体の進退移動に伴って、例えばスライド構造体に設けたプロテクタがスライド構造体と一体に移動し、プロテクタから固定構造体側に配索固定されたワイヤハーネスの摺動部材がプロテクタ内で摺接ガイドに沿って摺動しつつ、ワイヤハーネスのループ部がプロテクタ内で縮径又は拡張され、ループ部の拡張時にワイヤハーネスの余長が吸収され、ループ部の縮径時にワイヤハーネスがプロテクタから固定構造体側に引き出される。このように、スライド構造体のスライド動作に伴って、摺動部材が摺接ガイドに沿って移動し、プロテクタ内でワイヤハーネスのループ部が径方向に拡張したり、あるいはプロテクタ内でワイヤハーネスのループ部が横（水平）方向に拡張したりすることで、従来の板ばねを用いたプロテクタ構造に較べて、プロテクタが高さ方向にコンパクト化される。また、板ばねを使用することなく、ワイヤハーネスの剛性のみでループ部を構成して、ワイヤハーネスの余長吸収を行うことができる。

【0013】

請求項3に係る給電装置は、請求項1又は2記載の給電装置において、前記摺

接ガイド5が山形状に形成されたことを特徴とする。

上記構成により、スライド構造体の移動に伴って、摺動部材が山形状の摺接ガイドの頂部に向けて移動することで、ワイヤハーネスのループ部が強制的に拡張され、確実に余長吸収される。ワイヤハーネスの余長はループ部の拡張方向に吸収される。摺動部材が摺接ガイドの頂部に位置した時点で、ループ部が最大に拡張される。次いで山形状の摺接ガイドの裾側に向けて摺動部材が移動することで、ループ部が縮径されつつ、ワイヤハーネスが空間又はプロテクタから引き出される。

【0014】

請求項4に係る給電装置は、請求項1又は2記載の給電装置において、前記摺接ガイドが一端から他端にかけて傾斜状に形成されたことを特徴とする。

上記構成により、スライド構造体の移動に伴って、傾斜状の摺接ガイドに沿って摺動部材が例えば上昇することで、ワイヤハーネスのループ部が強制的に拡張され、確実に余長吸収される。ループ部は摺接ガイドに沿う方向（横方向）に拡張され、横方向に余長が吸収される。また、傾斜状の摺接ガイドに沿って摺動部材が例えば下降することで、ループ部が縮径されつつ、ワイヤハーネスが空間又はプロテクタから引き出される。

【0015】

請求項5に係る給電装置は、請求項3又は4記載の給電装置において、前記摺接ガイドが対向する一対のレールであり、該一対のレールの間を前記ワイヤハーネスが挿通し、前記摺動部材が該一対のレールにスライド自在に接する球状の部材であることを特徴とする。

上記構成により、ワイヤハーネスが一対のレールの間でループ状に屈曲しつつ余長吸収される。ワイヤハーネスの屈曲や揺動によって摺動部材の向きが変わっても、球状の摺動部材は一対のレール上を常にスムーズに摺動する。

【0016】

請求項6に係る給電装置は、請求項3又は4記載の給電装置において、前記摺接ガイドが対向する一対のガイド孔ないしガイド溝であり、前記摺動部材が該ガイド孔ないしガイド溝にスライド自在に係合する軸部を有することを特徴とする。

。上記構成により、軸部がガイド孔ないしガイド溝に係合することで、摺動部材の位置が常に正確に規定され、ワイヤハーネスのループ部の形成が一層スムーズ且つ確実に行われる。また、プロテクタ内に摺接ガイドが突出しないから、プロテクタ内等のハーネス挿通用の空間（幅）を狭くでき、空間やプロテクタの薄型化に寄与する。

【0017】

請求項7に係る給電装置は、請求項2～6の何れか1項に記載の給電装置において、前記プロテクタの長手方向にワイヤハーネス揺動用の長形の口部が設けられ、該プロテクタの端部側にワイヤハーネス固定側の口部が設けられたことを特徴とする。

上記構成により、スライド構造体側でプロテクタの端部からプロテクタ内に導入されたワイヤハーネスはプロテクタ内でループ状に屈曲して長手方向に延びる長形の口部から固定構造体側に導出される。スライド構造体の進退動作に伴ってワイヤハーネスは長形の口部に沿って進退方向に揺動し、ループ部が拡張される。

【0018】

請求項8に係る給電装置は、請求項1～7の何れか1項に記載の給電装置において、前記ワイヤハーネスを構成する各電線の絶縁被覆が温湿変化で剛性低下しにくい材質で形成されたことを特徴とする。

上記構成により、各電線の剛性すなわちワイヤハーネス全体の剛性が常に一定に（高く）維持され、温度や湿度の高い場合でもワイヤハーネスが型崩れを起こすことなく常にループ状に屈曲される。これにより、ワイヤハーネスの余長吸収が一層スムーズ且つ確実に行われる。また、電線は絶縁被覆の材質を変えるのみで、電線の形状は既存の通常電線と同一であり、汎用性が高い。

【0019】

請求項9に係る給電装置は、請求項1～8の何れか1項に記載の給電装置において、前記ワイヤハーネスの外周に被着された保護チューブが温湿変化で剛性低下しにくい材質で形成されたことを特徴とする。

ワイヤハーネスの剛性が常に一定に（高く）維持され、温度や湿度の高い場合でもワイヤハーネスが型崩れを起こすことなく常にループ状に屈曲される。これにより、ワイヤハーネスの余長吸収が一層スムーズ且つ確実に行われる。また、保護チューブは材質を変えるのみで、保護チューブの形状は既存のものと同一であるから、汎用性が高い。

【0020】

請求項10に係る給電装置は、請求項1～9の何れか1項に記載の給電装置において、前記ワイヤハーネスのループ部に、ヒンジで開閉自在な湾曲状の剛性部材が装着されたことを特徴とする。

上記構成により、ワイヤハーネスのループ部が剛性部材で常に湾曲形状に維持される。すなわち、スライド構造体の進退に伴って、ループ部が縮径した際に剛性部材がヒンジを支点に閉じ方向に回動しつつループ部を小径に湾曲矯正し、ループ部が拡張した際に剛性部材がヒンジを支点に開き方向に回動しつつループ部を大径に湾曲矯正する。これにより、ワイヤハーネスの余長吸収が一層スムーズ且つ確実に行われる。

【0021】

請求項11に係る給電装置を用いたハーネス配索構造は、請求項1～10の何れか1項に記載の給電装置の前記空間がスライド構造体又は固定構造体に設けられ、該スライド構造体が固定構造体にスライド自在に係合し、前記摺動部材に続くワイヤハーネス部分が該空間から該固定構造体又は該スライド構造体側に導出され、前記ループ部に続くワイヤハーネス部分が該スライド構造体又は該固定構造体側に導出されつつ固定されたことを特徴とする。

上記構成により、スライド構造体の進退に伴って、例えばスライド構造体に設けたハーネス収納用の空間がスライド構造体と一体に移動し、ワイヤハーネスが空間の長手方向に揺動しつつ、摺動部材が空間内で摺接ガイドに沿って摺動して、ワイヤハーネスのループ部が空間内で縮径又は拡張され、ループ部の拡張時にワイヤハーネスの余長が吸収され、ループ部の縮径時にワイヤハーネスが空間から固定構造体側に引き出される。このように、スライド構造体のスライド動作に伴って、摺動部材が摺接ガイドに沿って移動し、空間内でワイヤハーネスのルー

ブ部が径方向に拡張したり、あるいは空間内でワイヤハーネスのループ部が横（水平）方向に拡張したりすることで、従来の板ばねを用いた給電構造に較べて、空間が高さ方向に省スペース化される。また、板ばねを使用することなく、ワイヤハーネスの剛性のみでループ部を構成して、ワイヤハーネスの余長吸収を行うことができる。

【0022】

請求項12に係る給電装置を用いたハーネス配索構造は、請求項2～10の何れか1項に記載の給電装置の前記プロテクタがスライド構造体又は固定構造体に配置され、該スライド構造体が固定構造体にスライド自在に係合し、前記摺動部材に続くワイヤハーネス部分が該プロテクタの長形の口部から該固定構造体又は該スライド構造体側に導出され、前記ループ部に続くワイヤハーネス部分が該スライド構造体又は該固定構造体側に導出されつつ固定されたことを特徴とする。

上記構成により、スライド構造体の進退に伴って、例えばスライド構造体に設けたプロテクタがスライド構造体と一体に移動し、ワイヤハーネスがプロテクタの長形の口部に沿って揺動しつつ、摺動部材がプロテクタ内で摺接ガイドに沿って摺動して、ワイヤハーネスのループ部がプロテクタ内で縮径又は拡張され、ループ部の拡張時にワイヤハーネスの余長が吸収され、ループ部の縮径時にワイヤハーネスがプロテクタの長形の口部から固定構造体側に引き出される。このように、スライド構造体のスライド動作に伴って、摺動部材が摺接ガイドに沿って移動し、プロテクタ内でワイヤハーネスのループ部が径方向に拡張したり、あるいはプロテクタ内でワイヤハーネスのループ部が横（水平）方向に拡張したりすることで、従来の板ばねを用いたプロテクタ構造に較べて、プロテクタが高さ方向にコンパクト化される。また、板ばねを使用することなく、ワイヤハーネスの剛性のみでループ部を構成して、ワイヤハーネスの余長吸収を行うことができる。

【0023】

請求項13に係る給電装置を用いたハーネス配索構造は、請求項11又は12に記載の給電装置を用いたハーネス配索構造において、前記給電装置が縦置き又は横置きに配置されたことを特徴とする。

例えばスライド構造体がスライドドアである場合、給電装置を縦置き（垂直）

に配置して、スライドドア内の高さ方向（スライド直交方向）の省スペース化を図ることができる。また、スライド構造体がスライド式のシートである場合、給電装置を横置き（水平）に配置して、シート下側の横幅方向（スライド直交方向）の省スペース化を図ることができる。

【0024】

【発明の実施の形態】

以下に本発明の実施の形態を図面に基づいて詳細に説明する。

図1～図3は、本発明に係る給電装置とそれを用いたハーネス配索構造の第一の実施形態を示すものである。

【0025】

この給電装置1は自動車のスライドドア（スライド構造体）内に縦置き（垂直）に設けられるものであり、図1はスライドドアを全閉にした状態、図2はスライドドアを半開にした状態、図3はスライドドアを全開にした状態をそれぞれ示している。

【0026】

図1の如く、給電装置1は、高さを低く抑えた合成樹脂製のケース2と、ケース2に被着される合成樹脂製のカバー3（鎖線で示している）と、ケース2及びカバー3に対向して設けられた左右一对の略山形状の摺接ガイド5と、一对の摺接ガイド5の間でループ状に屈曲したワイヤハーネス6に固定され、摺接ガイド5に沿って前後方向スライド自在な摺動部材7とを備えたものである。

【0027】

ケース2は前半が略矩形状に形成され、後半が略傾斜状に形成されている。前後は車両の前後方向と一致している。ケース2は垂直な基板部8と、基板部8の周囲における周壁としての下側の水平な壁部9と、前側の湾曲状に立ち上げられた壁部10と、上側の水平な短い壁部11と、上側の壁部11に続く後半の湾曲状の壁部12とで構成されている。

【0028】

上側の壁部11にハーネス導出用の狭い口部13が設けられ、口部13の近傍の固定部14でワイヤハーネス6の一方が固定されている。口部13から導出さ

れたワイヤハーネスはコネクタ 15 でスライドドア側のワイヤハーネスや補機（図示せず）に接続される。ケース 2 はボルトや係止クリップといった固定手段（図示せず）でスライドドア（図示せず）のインナパネルに固定される。

【0029】

カバー 3 は基板部 8 に対向して板状に平行に設けられ、周壁 10～12 に係止枠片と係合突起等の係止手段（図示せず）で固定される。カバー 3 の下端はケース 2 の下壁 9 よりも少し上側に位置し、カバー 3 と下壁 9 との間に水平な横長スリット状の口部 16 が形成され、口部 16 からワイヤハーネス 6 の他方が導出され、車両ボディ（固定構造体）側のハーネス固定部（固定具）17 を経て、車両ボディ側のワイヤハーネス（図示せず）にコネクタ 18 で接続される。

【0030】

ハーネス固定部 17 はワイヤハーネス 6 を周方向回動自在に支持する構造であってもよい。また、ハーネス固定部 17 に代えてスライドドアと車両ボディとの間を渡る矩形筒状の長形又は円弧状の補助プロテクタを設け、補助プロテクタをスライドドアの開き直後（全閉直前）の車幅方向移動に伴って車両ボディ側にスライド収納させるようにすることも可能である。

【0031】

ケース 2 とカバー 3 とでプロテクタ 4 が構成されている。プロテクタ 4 内にハーネス収納用の横長の空間が形成されている。プロテクタ 4 の下側の口部 16 はケース 2 の前壁 10 から後端の開口 19 にかけて真直に延びている。後端の開口 19 は垂直な壁部（図示せず）で塞がれていてもよい。

【0032】

摺接ガイド 5 は、下壁 9（基板部 8 の下端）及びカバー 3 の下端から略山型に立ち上げられて、基板部 8 とカバー 3 の垂直な基板部とに対称に形成されている。カバー 3 側の摺接ガイド 5 は基板部 8 側よりも口部 16 の寸法だけ短くなっている。摺接ガイド 5 の山型形状は湾曲状であっても直線状に傾斜していてもよく、プロテクタ 4 の前半と後半とにほぼ等しい長さの傾斜部 5a, 5b を有している。

【0033】

図4に摺接ガイド5の一形態の断面図を示す如く、摺接ガイド5はケース2の基板部8の内面とカバー3の内面とにレール状に突出形成される。このレール5は上側に球状の摺動部材7を受ける湾曲面5dを有して断面略三角形状に形成されている。レール5の突出長さはワイヤハーネス6を一对のレール5の間にゆとりをもって挿通し得る長さに設定されている。一对のレール5の間にハーネス挿通用の空間が存在している。

【0034】

球状の摺動部材7は合成樹脂材で形成され、例えば左右に二分割されて、ワイヤハーネス6を内側の中空孔20内に挟んだ状態で、係止爪と係合凹部等の係止手段（図示せず）で相互に係止される。ワイヤハーネス6の外周に合成樹脂製のコルゲートチューブ21（図1）を被着させた場合は、コルゲートチューブ21の周方向の凹溝に摺動部材7の内側の凸条に係合させることで、摺動部材7が周方向回動自在でハーネス長手方向に移動阻止（固定）される。図1で摺動部材7の外径は下側の口部16の幅よりも大きく設定され、口部16から外側に摺動部材7が飛び出さないようになっている。

【0035】

なお、レール5を上下二対形成し、上下のレール5の間にワイヤハーネス6を脱落なく保持させることも可能である。また、レール5の断面形状は摺動部材7の形状に応じて適宜設定可能である。また、摺動部材7を非分割とし、中央の孔部20（図4）にワイヤハーネス6を挿通させた状態で、ハーネス長手方向の突出片（図示せず）にワイヤハーネス6をテープ巻き等で固定することも可能である。また、球状の摺動部材7をワイヤハーネス外周のコルゲートチューブ等の保護チューブに一体に形成することも可能である。

【0036】

図4のレール5と摺動部材7によれば、ワイヤハーネス6の自重を利用して摺動部材7をレール5上に接触（摺接）させることで、構造が簡素化・低コスト化される。図1では図4の形態の摺動部材7と摺接ガイド5を示している。

【0037】

図5は、摺接ガイドの他の形態を示すものであり、この摺接ガイド5'はケー

ス2の基板部8とカバー3とに貫通形成した山形状のガイド孔（カム孔）である。ガイド孔5'には摺動部材7'の軸部22がスライド自在に係合している。ガイド孔5'の前後端（下端）はカバー3の下端に開口せず、カバー3から軸部22が外れ出ないようにになっている。

【0038】

摺動部材7'は合成樹脂材で形成され、ワイヤハーネス6に挟持固定又はコルゲートチューブ21（図1）の凹溝との係合で周方向回転自在に固定される環状部23と、環状部23から径方向に突出した一对の軸部22とを備えている。環状部23は例えば左右に分割され、係止手段で相互に固定される。あるいは突出片（図示せず）でワイヤハーネス6にテープ巻き等で固定される。あるいはワイヤハーネス外周の保護チューブに一体に形成される。

【0039】

図5の形態によれば、ガイド孔5'によって摺動部材7'のスライド位置が正確に規定されるから、プロテクタ4内でのワイヤハーネス6の収縮が正確な径で行われ、摺動部材7'の上下方向のガタ付きも防止される。

【0040】

図1のスライドドアの全閉時に、摺動部材7は摺接ガイド5の後端（後半の傾斜部5aの下端側）に位置している。ワイヤハーネス6は摺動部材7から摺接ガイド5の傾斜部5aに沿って上向きに傾斜しつつプロテクタ4の後半で下向きに小さな輪を描いてワイヤハーネス後部21と交差しつつ上側の口部13に向けて後壁12に沿って符号6aの如く湾曲状に立ち上がっている。ワイヤハーネス後部21は下側の口部16から車両ボディ側のハーネス固定部17に向けて後方に引っ張られている。

【0041】

図2のスライドドアの半開時に（スライドドアを全ストロークの半分程度まで後方に開けた状態で）、車両ボディ側のハーネス固定部17は不動であり、プロテクタ4がスライドドアと一体に半ストロークほど後退し、それに伴って摺動部材7が摺接ガイド5の後半の傾斜部5aに沿って上昇し、摺接ガイド5のほぼ頂部5cに位置する。

【0042】

これにより、プロテクタ 4 の前半部内でワイヤハーネス 6 が大きな輪を描き、下側の口部 16 からハーネス固定部 17 までの間でワイヤハーネス 6 が弛むことなく、下側の口部 16 からプロテクタ 4 内にワイヤハーネス 6 がループ状に収容される。これにより、スライドドアの半開時におけるスライドドアと車両ボディとの間でのワイヤハーネス 6 の余長（弛み）が確実に吸収される。

【0043】

図 3 のスライドドアの全開時に、プロテクタ 4 はスライドドアと一体に後退し、摺動部材 7 は摺接ガイド 5 の前半の傾斜部 5b に沿って下降し、傾斜部 5b の前端に位置する。これに伴ってワイヤハーネス 6 はプロテクタ 4 の前半部内で小さく縮径されつつ、車両ボディのハーネス固定部 17 に向けて前方に引き出される。スライドドアの開閉に伴ってワイヤハーネス 6 は下側の口部 16 に沿って前後に揺動する。

【0044】

上記の如く、スライドドアの開閉に伴って略山型の摺接ガイド 5（5'）に沿って摺動部材 7（7'）がスライド移動することで、ワイヤハーネス 6 がプロテクタ 4 内でループ状に拡張しつつ余長吸収され、ループ状に縮径しつつ車両ボディ側に引き出され、ワイヤハーネス 6 の収縮動作がスムーズ且つ確実に行われる。

【0045】

図 1 において摺動部材 7 からハーネス固定部 17 までのワイヤハーネス部分 21 はプロテクタ 4 の外側に露出されるのでコルゲートチューブ等の可撓性の保護チューブ（外装部材）（符号 21 で代用）を被着させて防水・防塵等を図ることが好ましい。

【0046】

また、摺動部材 7 から上側の口部 13 にかけてのワイヤハーネス部分は、ループ状に屈曲させるために剛性を高めることが好ましい（柔軟ではスムーズに輪を描くことができず、ループ形状が崩れてしまう）。特に外気温度や湿度が高い時にワイヤハーネス 6 の剛性が低下しないようにすることが好ましい。

【0047】

このため、例えば図6の如く、ワイヤハーネス6を構成する各電線24の心線25を覆う絶縁被覆26をポリエチレンやフッ素樹脂等、温度の影響を受け難い材質で形成したり、あるいは図7の如く、複数本の電線24'（電線束）を包む保護チューブ28を図6と同様に温度や湿度で剛性の低下しない材料で形成することが好ましい。図6と図7の構成を同時に採用する（絶縁被覆26と保護チューブ28を同時に用いる）ことも有効である。

【0048】

図6や図7の構成（剛性安定樹脂材）は、摺動部材7（図1）からプロテクタ4内側に続くワイヤハーネス部分6bに限らず、摺動部材7からプロテクタ4外側に続くワイヤハーネス部分（符号21で代用する）にも一体的に適用可能である。

【0049】

また、図8（a）（b）に示す如く、ワイヤハーネス6のループ状屈曲部（ループ部）6bの屈曲外側面に合成樹脂製ないし金属製の湾曲状（円弧状）の剛性部材29をあてがって、ワイヤハーネス6をループ化しやすくすることも有効である。剛性部材29は一对の湾曲板30を中央のヒンジ（支点）31で回動（開閉）自在に連結させて構成される。湾曲板30は幅方向（ワイヤハーネス径方向）にも湾曲していてもよい。湾曲板30はテープ32等でワイヤハーネス6に固定される。

【0050】

剛性部材29が合成樹脂材の場合、ヒンジ31は薄肉ヒンジであってもよい。剛性部材29はワイヤハーネス6をプロテクタ4の内面との摩擦等から保護する補助プロテクタとしても作用する。なお、剛性部材29の形状は板状に限らず湾曲形の棒状であってもよい。

【0051】

スライドドアの全閉ないし全開時に、図8（a）の如くワイヤハーネス6が小さく縮径しつつ剛性部材29が閉じ方向に回動して、ワイヤハーネス6のループ形状を確保し、スライドドアの半開時に、図8（b）の如くワイヤハーネス6が

大きく拡径しつつ剛性部材 29 が開き方向に回転して、ワイヤハーネス 6 のループ形状を確保する。このように、剛性部材 29 によってワイヤハーネス 6 のループ形状が正確に維持され、スライドドアの開閉に伴うワイヤハーネス 6 の余長が確実に吸収される。

【0052】

図 9～図 11 は、本発明に係る給電装置とそれを用いたハーネス配索構造の第二の実施形態を示すものである。

この給電装置 33 は自動車のスライドドア（スライド構造体）内に縦置き（垂直）に設けられるものであり、図 9 はスライドドアを全閉にした状態、図 10 はスライドドアを半開にした状態、図 11 はスライドドアを全開にした状態をそれぞれ示している。図 1 の実施形態と同様の構成部分には同一の符号を用いて詳細な説明を省略する。

【0053】

図 9 の如く、給電装置 33 は、高さを低く抑えた合成樹脂製のケース 34 と、ケース 34 に被着される合成樹脂製のカバー 35（鎖線で示している）と、ケース 34 及びカバー 35 に対向して設けられた左右一対の傾斜状の摺接ガイド 37 と、一対の摺接ガイド 37 の間でループ状に屈曲したワイヤハーネス 6 に固定され、摺接ガイド 37 に沿って前後方向スライド自在な摺動部材 7 とを備えたものである。

【0054】

ケース 34 とカバー 35 とでプロテクタ 36 が構成される。プロテクタ 36 内にハーネス収納用の横長の空間が形成される。ケース 34 は横長の略矩形状に形成され、前後の壁部 38, 39 の上側に、ワイヤハーネス 6 のループ状屈曲部 6b に沿う湾曲部 40 を有している。前後の壁部 38, 39 は平行な上下の壁部 41, 42 に続き、各壁部 38～42 で垂直な基板部 43 の周りの周壁が構成され、カバー 35 の下端と下壁 42 との間に水平方向の横長のハーネス導出（揺動）用の口部 44 が形成され、後壁 39 の下部にハーネス導出（固定）用の狭い口部 45 が形成されている。ワイヤハーネス 6 の一方 21 は横長の口部 44 からハーネス固定部 17 を経て車両ボディ側に配索され、ワイヤハーネス 6 の他方 6d は

後側の口部45の近傍で固定されつつスライドドア側に配索される。

【0055】

摺接ガイド37は直線状に傾斜し、摺接ガイド37の上端37aはプロテクタ36の後壁39の上部内側に位置し、摺接ガイド37の下端37bは前壁38の下部内側に位置している。ワイヤハーネス6に摺動部材7が固定され、摺動部材7が摺接ガイド37に沿って前後に進退しつつ上下に昇降する。

【0056】

摺接ガイド37や摺動部材7は図4や図5で示す形態をそのまま使用可能である。すなわち、図4の如くプロテクタ36のケース34とカバー35の左右一対の傾斜状のレールにワイヤハーネス6の球状の摺動部材7をスライド自在に係合させたり、図5の如くプロテクタ36のケース34とカバー35の傾斜状のガイド孔5'にワイヤハーネス6の環状の摺動部材7'の軸部22をスライド自在に係合させる。図9では図4の形態を示している。

【0057】

図9のスライドドアの全閉時に、摺動部材7は摺接ガイド37の後部上端37aに位置し、ワイヤハーネス6は横長のプロテクタ36内で大きな径で横長ループ状に屈曲し、摺動部材7からプロテクタ36の後壁39に沿って垂下しつつ横長の口部44の後端側から車両ボディ側に導出されている。

【0058】

図10のスライドドアの半開時に、プロテクタ36はスライドドアと一体に後退し、車両ボディ側のハーネス固定部17の位置は不変であり、摺動部材7は摺接ガイド37に沿って半分程移動し、摺接ガイド37の長手方向中間部に位置し、ワイヤハーネス6は図9の全閉時よりも小径に屈曲し、ループ部6bがプロテクタ36の前半部に位置する。ループ部6bに続くワイヤハーネス部分6dはプロテクタ36の下壁42に沿って水平方向に真直に延びて後端のハーネス固定側の口部45に達している。

【0059】

図11のスライドドアの全開時に、プロテクタ36はスライドドアと一体に車両後方に移動し、それに伴って摺動部材7は摺接ガイド37に沿って前方に移動

しつつ下降して摺接ガイド 37 の前端（下端）37b に位置し、ワイヤハーネス 6 のループ部 6b は図 10 の半開状態よりも小径に縮径される。ループ部 6b に続くハーネス部分 6d はプロテクタ 36 の下壁 42 に沿って真直に延びている。スライドドアの開閉に伴って、摺動部材 7 からプロテクタ外側に続くワイヤハーネス部分 21 は長形の口部 44 に沿って前後に揺動する。

【0060】

このように、スライドドアの開閉動作に伴って、ワイヤハーネス 6 が横長のプロテクタ 36 内でループ状に屈曲しつつ横方向に伸縮して余長を吸収する。このため、従来の板ばねでワイヤハーネスの余長を上向きに吸収するのとは異なり、プロテクタ 36 が高さ方向にコンパクト化される。

【0061】

図 6 で示す電線 24 を剛性アップさせる構造や、図 7 で示すワイヤハーネス 6 を剛性アップさせる構成や、図 7 (a) (b) で示す剛性部材の構成は、図 9 ～ 図 11 の実施形態においても適用可能であり、作用効果は前記実施形態と同様に、高温多湿の条件においてもワイヤハーネス 6 の剛性を確保して、常にワイヤハーネス 6 をループ化させやすくし、ループ形状を崩れなく維持して、スムーズで確実な余長吸収を達成することができる。

【0062】

なお、上記各実施形態の給電装置は自動車のスライドドア以外にも種々の形態のスライドドアや後述の自動車のスライドシート等のスライド構造体において適用可能である。この場合、車両ボディからスライドドアへのハーネス配索構造は、固定構造体からスライド構造体へのハーネス配索構造となる。

【0063】

また、樹脂成形が可能であれば、ケース 2, 34 とカバー 3, 35 とを一体のプロテクタ 4, 36 として形成してもよい。また、摺接ガイド 5, 37 はプロテクタ 4, 36 と一体ではなく別体に形成してプロテクタ 4, 36 に固定することも可能である。また、摺接ガイド 5, 5', 37 を一対ではなくケース 2, 34 又はカバー 3, 35 に一本のみ形成し、一本の摺接ガイドで摺動部材 7, 7' を案内させることも可能である。この場合、ケース 2, 34 に摺接ガイド 5, 5'

、37を設けたとすると、摺動部材7、7'はカバー3、35の内面にガタ付きなく接していることが好ましい。また、前記摺接ガイドとしてのガイド孔5'に代えてガイド溝を用いることも可能である。また、図9の摺接ガイド37は直線的な傾斜ではなく湾曲状の傾斜であってもよい。この場合、図1の摺接ガイド5とは異なり、摺接ガイド37の一端37aは他端37bよりも高い位置にあり、中間部は一端37aよりも常に低い位置にあって、摺接ガイド37が一端から他端にかけて漸次低くなるものとする。また、摺動部材5は球状に限らず、たとえ球状であっても、一对のレール5に対するスライド係合用の凹溝部を有しているものであってもよい。

【0064】

また、ワイヤハーネス6はプロテクタ4、36内に収容した状態で一つの製品すなわち給電装置1、33を構成することから、ワイヤハーネス6を給電装置1、33の一構成部品と見ることもできる。また、プロテクタ4、36をスライドドアではなく車両ボディ側に設けることも可能である。この場合、プロテクタ4、36を車両ボディ側に水平横置きとし、ケース2、34の下壁9、42を開放してハーネス導出兼揺動用の横長の口部16、44とすることも可能である。また、固定部14を用いずプロテクタ4、36の狭い口部13、45からワイヤハーネス6を導出させてスライドドア側の固定手段で固定させることも可能である。

【0065】

図12～図16は、本発明に係る給電装置とそれを用いたハーネス配索構造の第三の実施形態として、給電装置を自動車のスライド式のシートに適用した例を示すものである。

【0066】

図12の如く、シート46は略門型のシートベース47の上に固定され、シートベース47は滑車47aでフロア側の左右二本のレール48に前後方向スライド自在に係合し、シートベース47の下側に給電装置49が配設される。給電装置49はシート46側の乗員検知センサやシートヒータ、パワーシート、シートベルトセンサ、サイドエアバックといった補機に給電を行う。本例の給電装置4

9は図9と類似の形態のものを使用しており、図9と同じ作用部分には同じ符号を付して詳細な説明を省略する。摺動部材7'（図13）や摺接ガイド37'は図5の形態のものを使用している。

【0067】

図13の鎖線の如くシートベース47は前後に大きくスライドし、シートベース47の下側において給電装置49が図14の如くフロアパネル50に横置き（水平）に配置される。本例において給電装置49はフロアパネル50の凹部内に埋入固定され、上側のカバー35の前後方向の長形の口部44から揺動側のワイヤハーネス6が導出されてシートベース47側でコネクタ18でシート46側のワイヤハーネスや補機（図示せず）に接続されている。固定側のワイヤハーネスは一端の壁部41においてコネクタ15で車両ボディ側（電源側）のワイヤハーネス（図示せず）に接続されている。

【0068】

図13の実線の如くシート46（シートベース47）が前方に位置した状態で、図9と同様にプロテクタ36の前半部内でワイヤハーネス6が横長に大きなループ状に屈曲して位置する。プロテクタ36内にハーネス収納用の空間が形成されている。鎖線の如くシート46を後方にスライドさせるに伴って、プロテクタ36内で摺動部材7'が傾斜状の摺接ガイド37'に沿って長形の口部44側に向けてスライドし、ワイヤハーネス6がプロテクタ36の後部内で図10～図11の如く縮径して、シート46のスライド量を吸収する。ワイヤハーネス6は長形の口部44に沿って後方に揺動する。

【0069】

プロテクタ36が長形の口部44に沿って長く、口部44と直交する方向に短く形成されているから、プロテクタ36の取付側がシート46の横幅方向に省スペース化され、あらゆるシート46に汎用的に装着可能である。プロテクタ36からのワイヤハーネス6の導出（露出）長さを増せば、プロテクタ36を図13よりも長手方向に短縮させることができる。

【0070】

図15～図16は、給電装置49をフロアパネル50ではなくシートベース4

7に配置した例を示すものであり、シートベース47の裏面にプロテクタ36が固定され、プロテクタ36内にハーネス収納用の空間が形成され、プロテクタ36の下側のカバー35に長形の口部44が設けられ、口部44からワイヤハーネス6が下向きに導出されてフロアパネル50側（電源側）のワイヤハーネスにコネクタ18で接続されている。プロテクタ36の側端部に固定側のワイヤハーネスのコネクタ15が位置してシート46側のワイヤハーネスにコネクタ接続されている。

【0071】

図16の如く給電装置49はシート46と一体に進退し、それに伴ってワイヤハーネス6（図15）がプロテクタ36の長形の口部44に沿って揺動しつつ、プロテクタ36内で図13と同様にループ状に伸縮して余長吸収される。図15の実施形態は図13の形態に較べてプロテクタ36からのワイヤハーネス6の露出長さが短く、ワイヤハーネス6の保護性が良好である。

【0072】

なお、上記各実施形態においては、例えばスライドドア内やスライドシート内にプロテクタ4, 36を配置したが、プロテクタ4, 36を用いずに、例えばスライドドア62（図17参照）のインナパネル66とアウトパネル又はインナパネル66とドアトリム（図示せず）とに摺接ガイド5, 5', 37を一体ないし別体に設けることも可能である。この場合、インナパネル66とアウトパネルとの間、又はインナパネル66とドアトリムとの間の空間がハーネス収納用の空間として活用される。

【0073】

【発明の効果】

以上の如く、請求項1記載の発明によれば、空間側の摺接ガイドに沿ってワイヤハーネスの摺動部材を移動させつつループ部を拡張させることで、従来の板ばねやその固定部材等を用いることなく、少ない部品でワイヤハーネスの余長をスムーズ且つ確実に吸収することができ、しかも余長を従来のように上向きではなく、ループ部の径方向や横方向に吸収することで、ハーネス収納用の空間が高さ方向に省スペース化される。これらにより、給電構造が簡素化、低コスト化され

ると共に、自動車のスライドドアといった高さ方向のスペース制限があるものに給電装置やワイヤハーネスを省スペースで組み付けて、多くの車種等に汎用させることができる。

【0074】

請求項2記載の発明によれば、プロテクタ内の摺接ガイドに沿ってワイヤハーネスの摺動部材を移動させつつループ部を拡張させることで、従来の板ばねやその固定部材等を用いることなく、少ない部品でワイヤハーネスの余長をスムーズ且つ確実に吸収することができ、しかも余長を従来のように上向きではなく、ループ部の径方向や横方向に吸収することで、プロテクタが高さ方向にコンパクト化される。これらにより、構造が簡素化、低コスト化されると共に、自動車のスライドドアといった高さ方向のスペース制限があるものにおいて省スペースでプロテクタを組み付けて、多くの車種等に汎用させることができる。

【0075】

請求項3記載の発明によれば、スライド構造体の移動に伴って、山形状の摺接ガイドに沿って摺動部材が例えば昇降し、ワイヤハーネスのループ部が強制的に拡張され、ループ部の径方向に余長吸収されるから、従来の板ばねを用いた給電装置に較べてハーネス収納用の空間又はプロテクタが高さ方向に省スペース化、コンパクト化され、汎用性が拡大する。

【0076】

請求項4記載の発明によれば、スライド構造体の移動に伴って、傾斜状の摺接ガイドに沿って摺動部材が例えば昇降し、ループ部が摺接ガイドに沿う方向（横方向）に拡張され、横方向に余長が吸収されるから、従来の板ばねを用いた給電装置に較べてハーネス収納用の空間又はプロテクタが高さ方向に省スペース化、コンパクト化され、汎用性が拡大する。

【0077】

請求項5記載の発明によれば、ワイヤハーネスの屈曲や揺動によって摺動部材の向きが変わっても、球状の摺動部材は一对のレール上を常にスムーズに摺動するから、ワイヤハーネスの余長吸収がスムーズ且つ確実に行われる。

【0078】

請求項6記載の発明によれば、軸部がガイド孔ないしガイド溝に係合することで、摺動部材の位置が常に正確に規定され、ワイヤハーネスのループ部の形成すなわち余長吸収が一層スムーズ且つ確実に行われる。

【0079】

請求項7記載の発明によれば、スライド構造体の進退動作に伴ってワイヤハーネスが長形の口部に沿って前後に揺動つつループ部が拡張されることで、スライドドアの前後方向の移動と車両ボディから外側に離間する方向の移動とにスムーズ且つ確実に対応してワイヤハーネスの余長を確実に吸収させることができる。

【0080】

請求項8記載の発明によれば、温度や湿度の高い場合でもワイヤハーネスが型崩れを起こすことなく常にループ状に屈曲され、ワイヤハーネスの余長吸収が一層スムーズ且つ確実に行われて、スライド構造体への給電の信頼性が向上する。また、電線は絶縁被覆の材質を変えるのみで、電線の形状は既存の通常電線と同一であり、汎用性が高いから、どのような形態のスライド構造体にも特殊形状の電線を用いることなく、低コストで対応できる。

【0081】

請求項9記載の発明によれば、温度や湿度の高い場合でもワイヤハーネスが型崩れを起こすことなく常にループ状に屈曲され、ワイヤハーネスの余長吸収が一層スムーズ且つ確実に行われて、スライド構造体への給電の信頼性が向上する。また、保護チューブは材質を変えるのみで、保護チューブの形状は既存のものと同じであり、汎用性が高いから、どのような形態のスライド構造体にも特殊形状の電線を用いることなく、低コストで対応できる。

【0082】

請求項10記載の発明によれば、スライド構造体の進退に伴ってワイヤハーネスのループ部が剛性部材で常に湾曲形状に維持されつつ拡張されるから、ワイヤハーネスの余長吸収が一層スムーズ且つ確実に行われ、スライド構造体への給電の信頼性が向上する。

【0083】

請求項 11 記載の発明によれば、空間側の摺接ガイドに沿ってワイヤハーネスの摺動部材を移動させつつループ部を拡張させることで、従来の板ばねやその固定部材等を用いることなく、少ない部品でワイヤハーネスの余長をスムーズ且つ確実に吸収することができ、しかも余長を従来のように上向きではなく、ループ部の径方向や横方向に吸収することで、空間が高さ方向に省スペース化される。これらにより、構造が簡素化、低コスト化されると共に、自動車のスライドドアといった高さ方向のスペース制限があるものに給電装置やワイヤハーネスを省スペースで組み付けて、多くの車種等に汎用させることができる。

【0084】

請求項 12 記載の発明によれば、プロテクタ内の摺接ガイドに沿ってワイヤハーネスの摺動部材を移動させつつループ部を拡張させることで、従来の板ばねやその固定部材等を用いることなく、少ない部品でワイヤハーネスの余長をスムーズ且つ確実に吸収することができ、しかも余長を従来のように上向きではなく、ループ部の径方向や横方向に吸収することで、プロテクタが高さ方向にコンパクト化される。これらにより、構造が簡素化、低コスト化されると共に、自動車のスライドドアといった高さ方向のスペース制限があるものにおいて省スペースでプロテクタを組み付けて、多くの車種等に汎用させることができる。

【0085】

請求項 13 記載の発明によれば、スライドドアの場合はスライドドア内の高さ方向の省スペース化が図られ、給電装置をスライドドアに難なく組み付けることができ、シートの場合は、例えばシート下のスペースを有効活用しつつ横幅方向の省スペース化を図って給電装置をコンパクトに配置することができる。このように、給電装置の汎用化により、低コスト化を達成することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明に係る給電装置とそれを用いたハーネス配索構造をスライドドアに適用した第一の実施形態を示すスライドドア全閉時の状態の斜視図である。

【図 2】

同じくスライドドア半開時の状態を示す斜視図である。

【図 3】

同じくスライドドア全開時の状態を示す斜視図である。

【図 4】

プロテクタ内の摺動部材と摺接ガイドの一実施形態を示す縦断面図である。

【図 5】

プロテクタ内の摺動部材と摺接ガイドの他の実施形態を示す縦断面図である。

【図 6】

ワイヤハーネスを構成する電線の一実施形態を示す斜視図である。

【図 7】

ワイヤハーネスの一実施形態を示す斜視図である。

【図 8】

剛性部材の一実施形態を示し、(a) はワイヤハーネス縮径時の正面図、(b) はワイヤハーネス拡張時の正面図である。

【図 9】

本発明に係る給電装置とそれを用いたハーネス配索構造の第二の実施形態を示すスライドドア全開時の状態の斜視図である。

【図 10】

同じくスライドドア半開時の状態を示す斜視図である。

【図 11】

同じくスライドドア全開時の状態を示す斜視図である。

【図 12】

本発明に係る給電装置とそれを用いたハーネス配索構造をスライドシートに適用した第三の実施形態を示す分解斜視図である。

【図 13】

同じくスライドシートを進退させた時のハーネス配索状態を示す平面図である。

【図 14】

同じく給電装置とそれを用いたハーネス配索構造を示す正面図である。

【図 15】

上記の給電装置とそれを用いたハーネス配索構造の配置を変えた実施形態を示す正面図である。

【図 16】

同じく給電装置とそれを用いたハーネス配索構造を示す側面図である。

【図 17】

従来の給電装置とそれを用いたハーネス配索構造を示すスライドドア全閉時の状態の斜視図である。

【図 18】

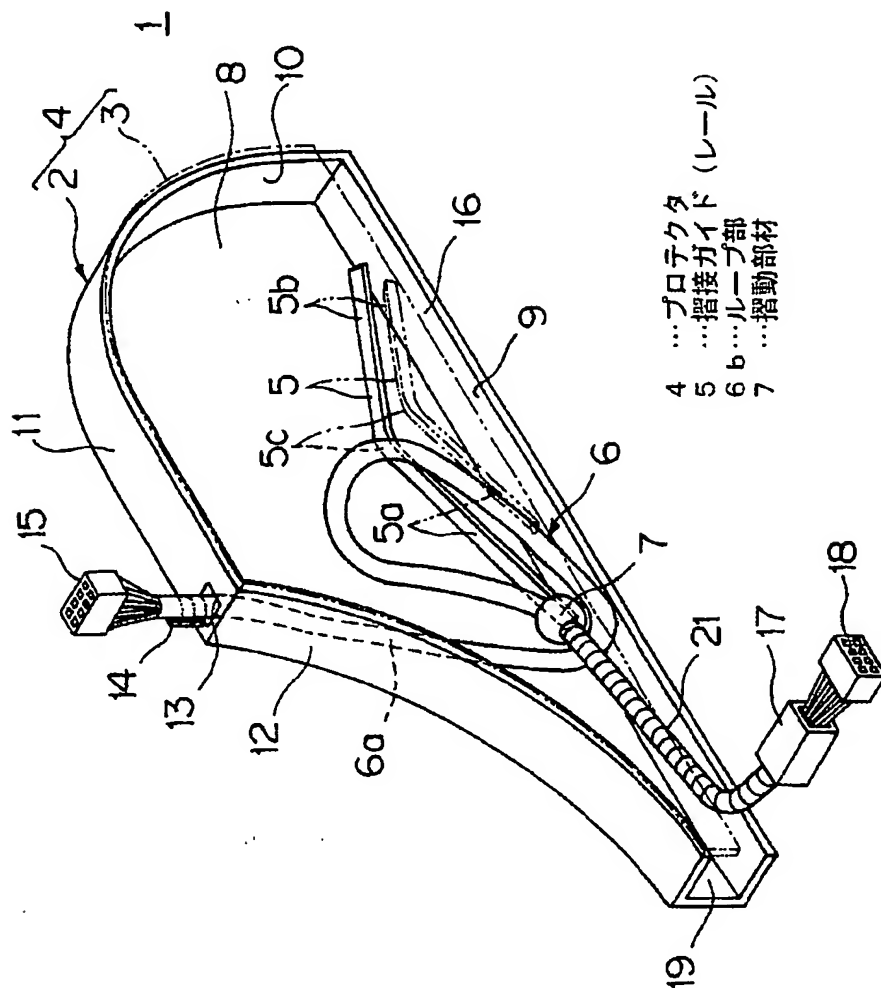
同じくスライドドア全開近くの状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

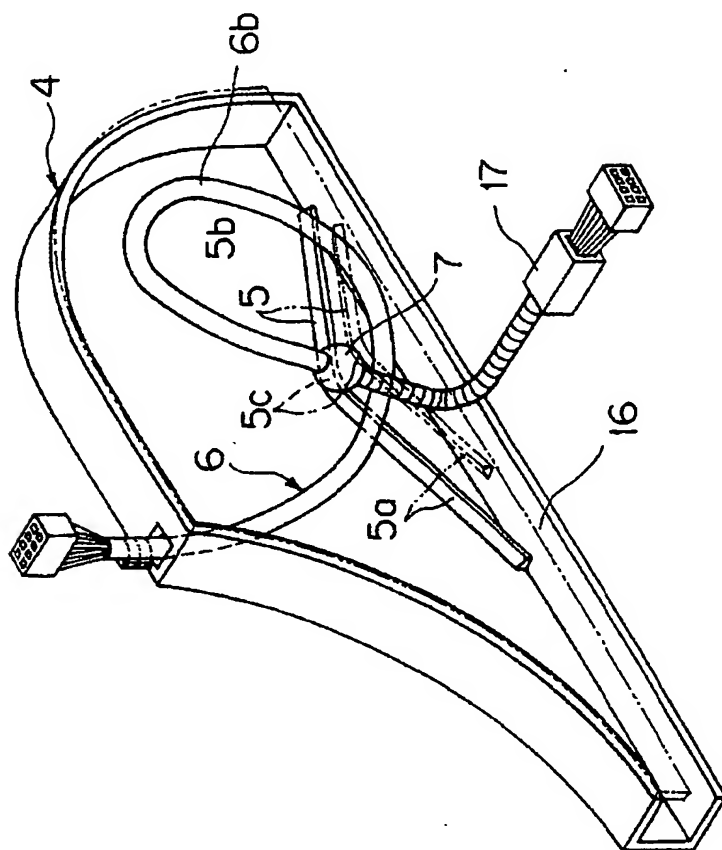
1, 33, 49	給電装置
4, 36	プロテクタ
5	摺接ガイド (レール)
5', 37'	摺接ガイド (ガイド孔)
6	ワイヤハーネス
6b	ループ部
6a, 6d, 21	ワイヤハーネス部分
7, 7'	摺動部材
13, 45	固定側の口部
16, 44	長形の口部
24	電線
26	絶縁被覆
28	保護チューブ
29	剛性部材
31	ヒンジ
37	摺接ガイド (レール)

【書類名】 図面

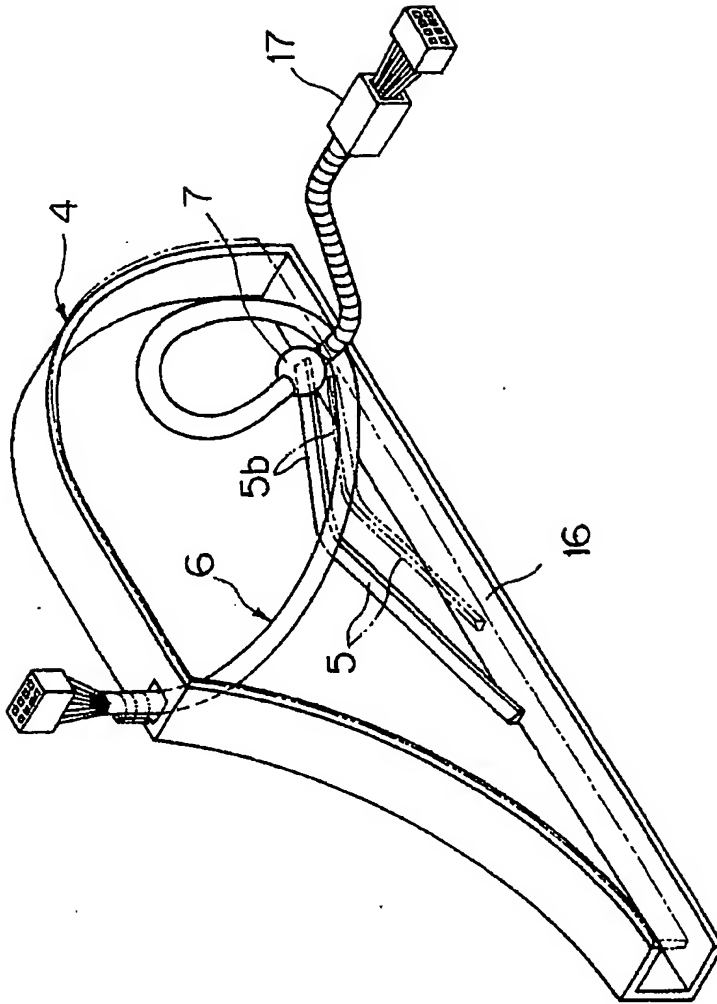
【図1】



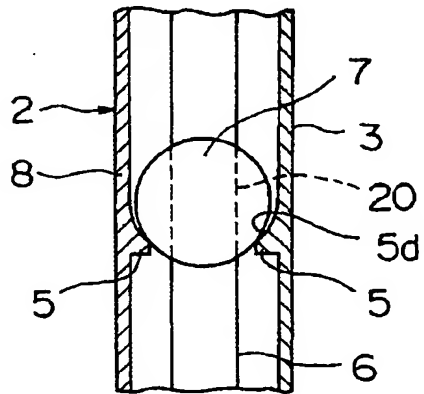
【図2】



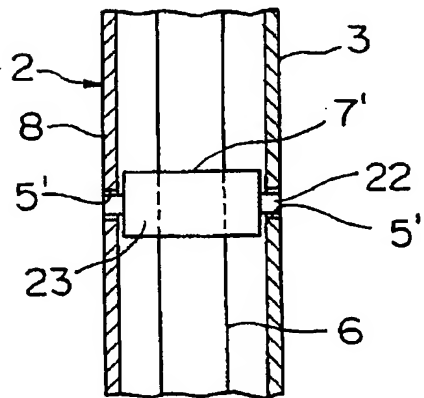
【図 3】



【図 4】

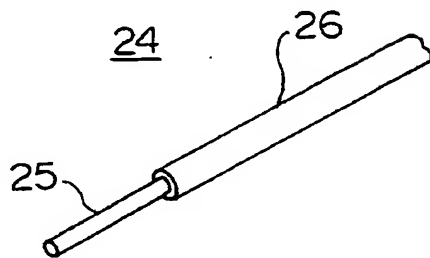


【図 5】

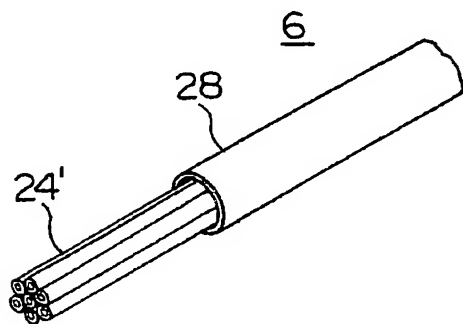


5' … 摺接ガイド (ガイド孔)
7' … 摺動部材

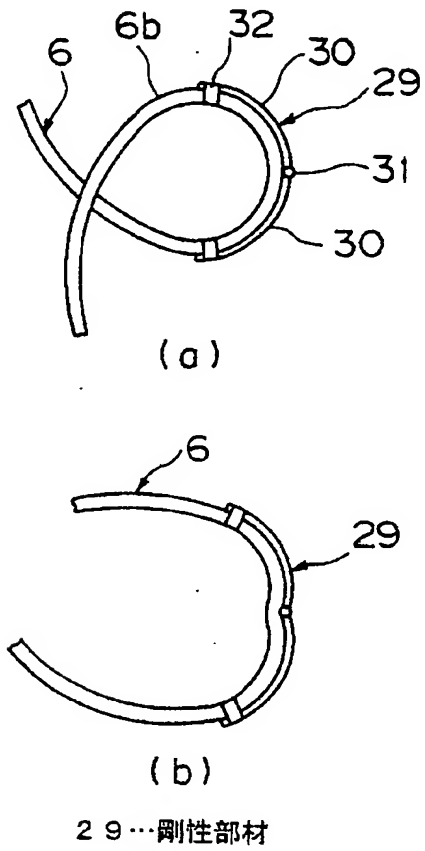
【図 6】



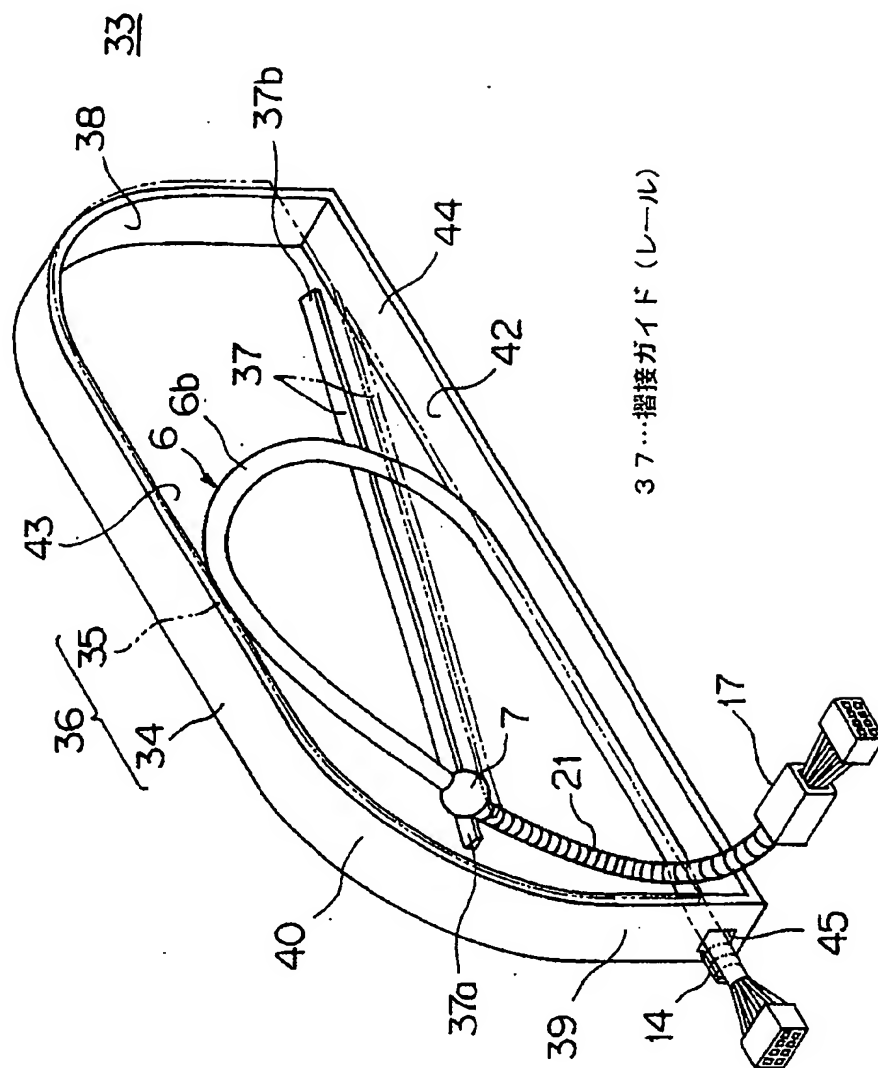
【図 7】



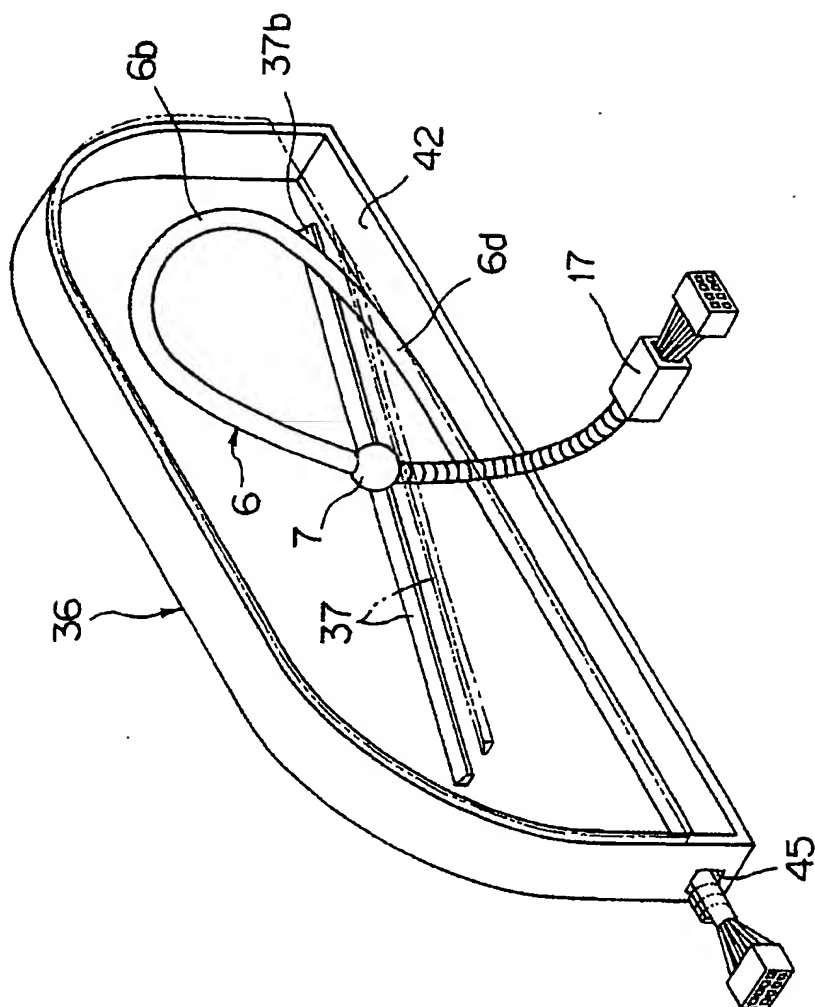
【図 8】



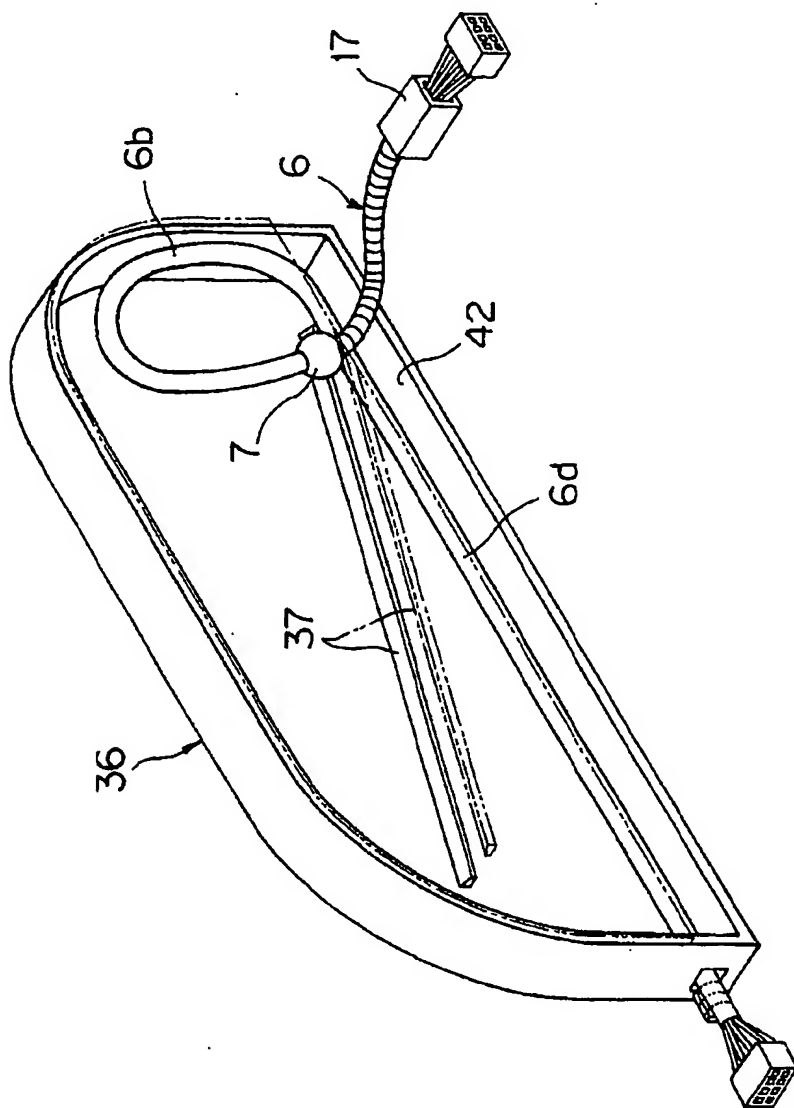
【図 9】



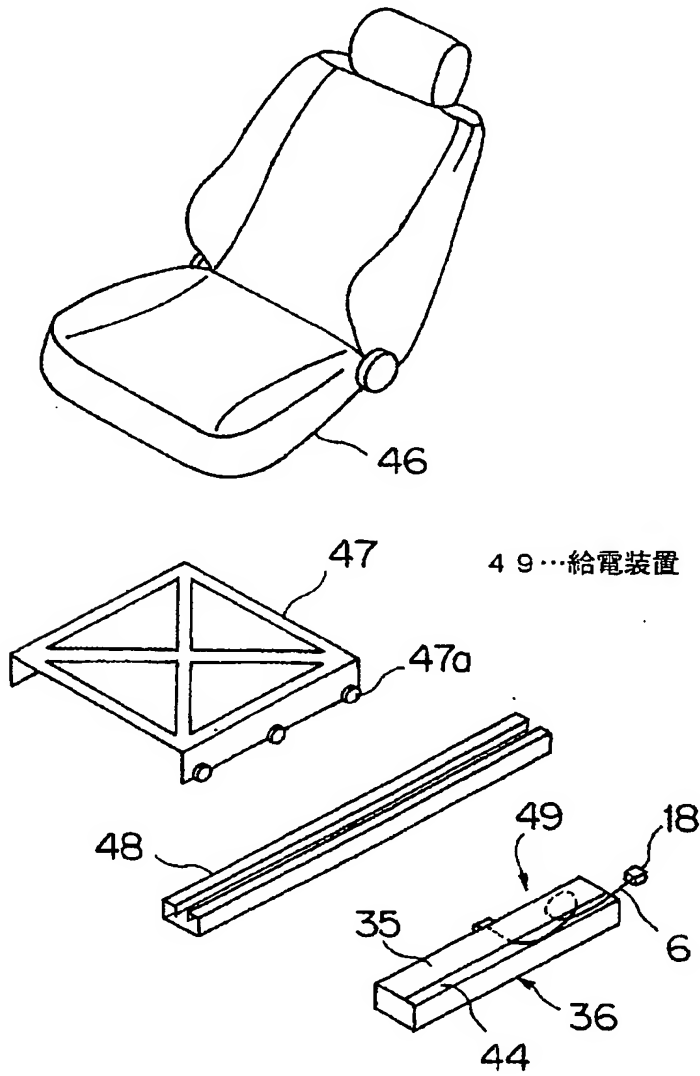
【図 10】



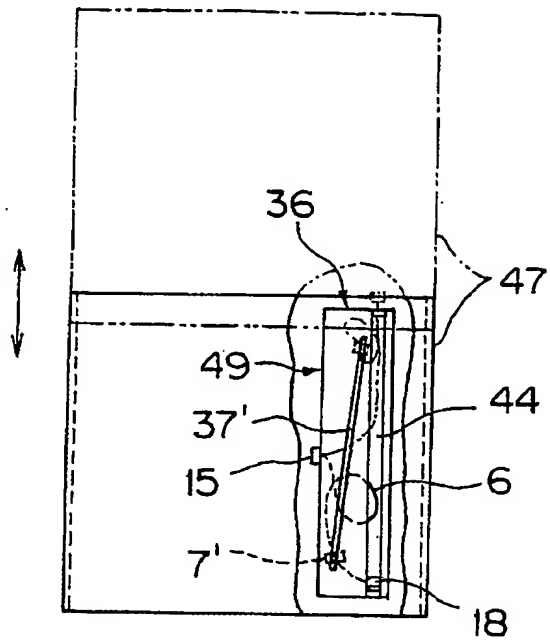
【図11】



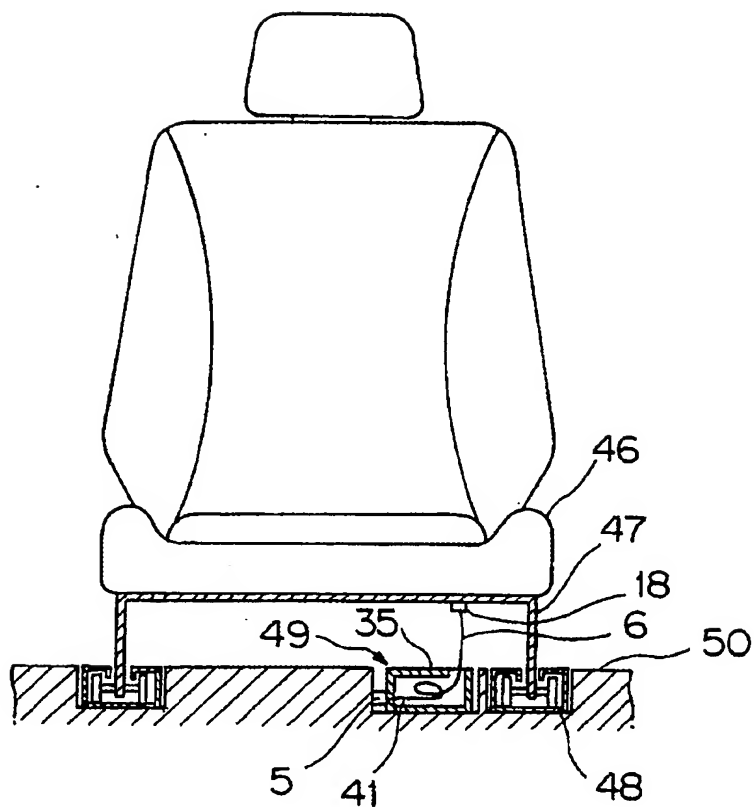
【図 12】



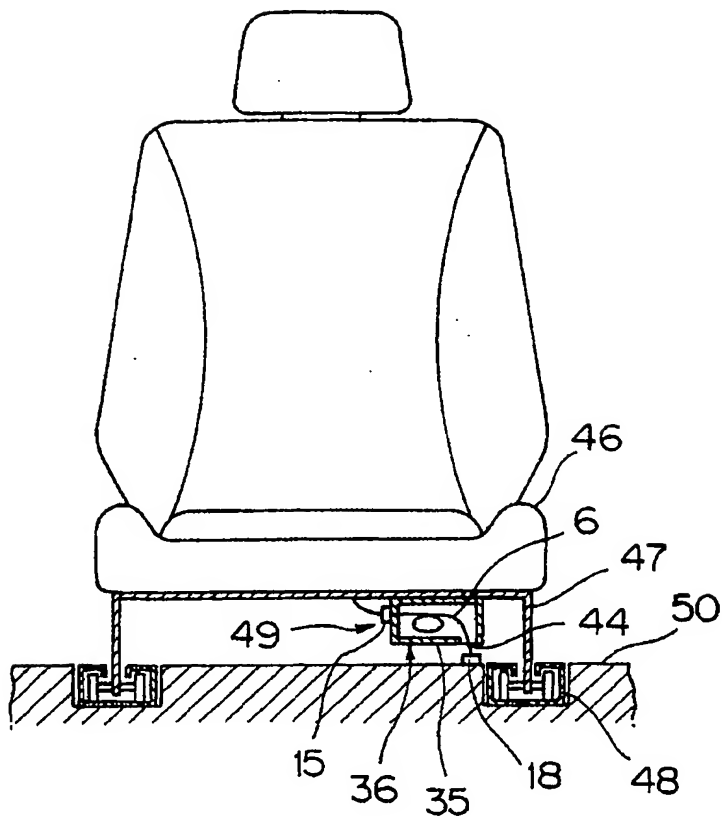
【図 13】



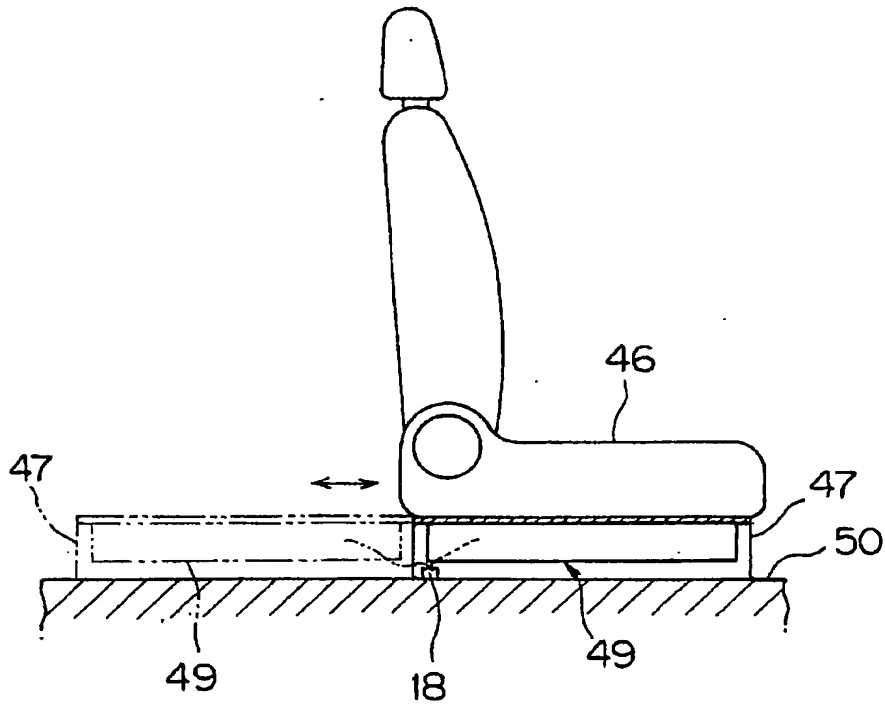
【図 14】



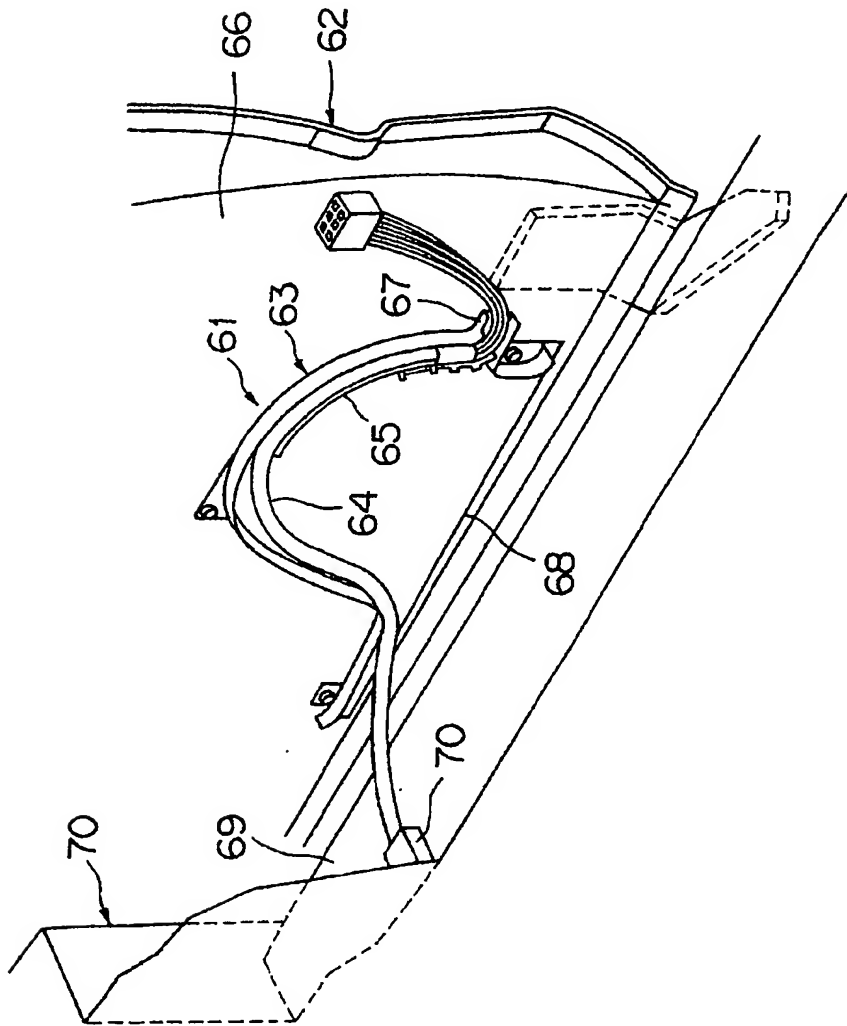
【図 15】



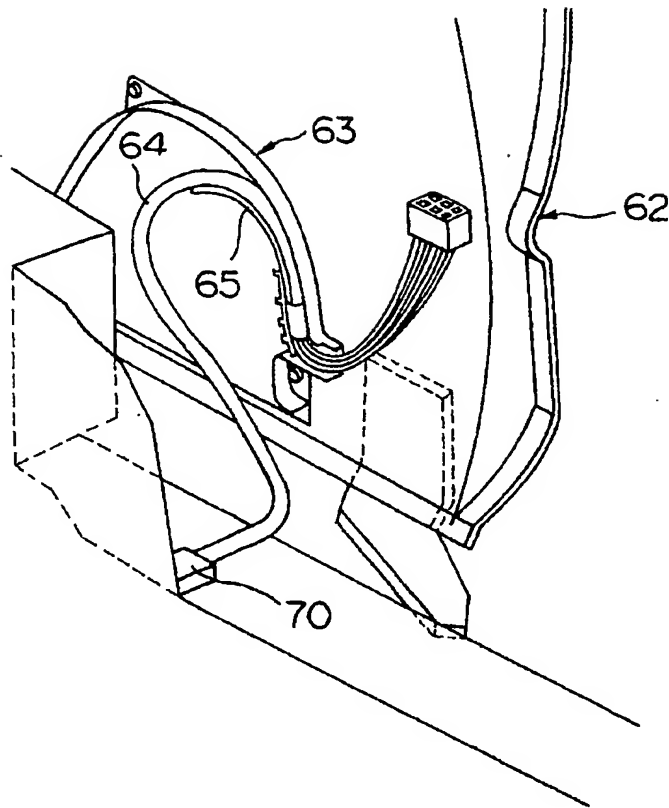
【図 16】



【図17】



【図18】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 給電装置の高さ方向のコンパクト化と構造の簡素化等を図る。

【解決手段】 ワイヤハーネス 6 をループ状に屈曲させて収容する空間と、ワイヤハーネスに設けた摺動部材 7 と、空間に臨んで設けられ、ワイヤハーネスのループ部 6 b を拡張させる方向に摺動部材 7 を案内する摺接ガイド 5 とを備える給電装置 1 を採用する。前記空間はプロテクタ 4 内に形成される。摺接ガイド 5 は山形状に形成される。摺接ガイドを一端から他端にかけて傾斜状に形成してもよい。例えば摺接ガイド 5 は対向する一対のレールであり、一対のレールの間をワイヤハーネス 6 が挿通し、摺動部材 7 はレールにスライド自在に接する球状の部材である。ワイヤハーネス 6 の各電線の絶縁被覆や、ワイヤハーネス 6 の外周の保護チューブを温湿変化で剛性低下しにくい材質で形成したり、ループ部 6 b にヒンジで開閉自在な湾曲状の剛性部材を装着してもよい。

【選択図】 図 1

特願2002-298699

出願人履歴情報

識別番号

[000006895]

1. 変更年月日
[変更理由]

1990年 9月 6日

新規登録

住所
氏名

東京都港区三田1丁目4番28号
矢崎総業株式会社